

わたしと門川町

門川高等学校 二年 佐藤 大将

指名されたときに、戸惑わずに話せるようになった。

これが高校生になって、私自身の変わったところですよ。

昨年十月、アグリドリームキャンプというものがありました。私は現在、門川高校の栽培ビジネス系列に所属していて、その代表として参加しました。今習っている農業の勉強よりもっと専門的なことを学び、自動で動くトラクターや農薬をまくドローンの体験もありました。

一日目の夜、講演に来たゲストの方に、突然指名をされました。以前なら、指名されてもおどおどして、うまく話せませんでした。このときは、うまく感情を切り替え、すらすらと発表することができました。

このように、私が農業など様々なことを学びながら自分を高められているのも門川町で生まれ育っているからだと思っています。私が門川町で生まれ育ち、早十六年が経ちました。この十六年間の間に、コンビニエンスストアが増えたり、門川町役場が新しくなったりしました。私と同じように、町も少しずつ変化しています。

変化することはいいことですが、私が門川町で今後も残していきたいと感じるものが二つあります。

一つ目は、「おいしい海産物」です。門川町は海に隣接していて、漁業も盛んです。私も、初めて家族で釣りをした場所が

「門川漁港」でした。釣りのやり方が分からなかった私は、父に穴釣りを教えてもらい、初めて「カサゴ」を釣りました。今思えば、そこまでいい型のカサゴではなかったかもしれませんが、当時の私はまだ幼く、小柄で、釣りも初めてだったこともあり、その時初めて釣ったカサゴがとても大きく見え、ものすごく喜んで何回も家族に見せびらかした記憶があります。また、祖母が作ってくれたメサバの巻き寿司も皆で囲んでおいしく食べた思い出の料理です。

二つ目は、「おいしいお米」です。私は、生まれてから今に至るまで、お米を食べない日は無いと思えるほどよく食べています。特に、私の祖父母が作っていたお米は、ふっくらしていて、ほどよい甘さが特徴で、私の大好物でした。祖父母のお米を食べられない日は、お店で買ったお米を食べたりしましたが、何か物足りない感じがありました。今は祖父母が年齢的に農作業が厳しくなり、食べられなくなったので、少し寂しいです。

今でも私は、祖父母が門川町で作ったお米が大好きです。お米を作ってくれた祖父母やここでお米を作らせてくださった門川町には感謝をしてもきれないです。

将来、私は農業に関連する仕事をしたいと思っています。もし、私が自分でお米や野菜などを育てられるようになれば、次は私があのおいしいお米を門川町で作って、祖父母に食べてもらいたいです。

私は、これらの二つの魅力が門川町にあり続けてほしいです。また、私は、門川町の静かで住みやすいところが好きですが、

様々な年齢層の人たちが楽しめるお店や公園が増えてほしい
とも思います。

私は将来、自分で考えて行動できるような人になりたいと
考えています。もちろん、人に頼ることも大事ですが、人任せに
ならないようにしたいです。そのためにも、今、高校生のうちに、
世の中を知る努力をしていこうと思います。分からないことは
調べてみるなど、自分の世界を広げていきたいです。また、恥ず
かしさを気にせず行動することもやっていきたいです。

このように、私が門川で生まれ育った十六年で色々なことを
考えたり、自然があるからこそのイベントを友人と楽しんだり
しました。まだまだこの先、いろいろなことがこの門川で起こる
と思いますが、これから先も思い出を作っていくって、門川と共に
年を重ねることができればいいなと思います。私は今でも門川
に生まれてよかったなと思います。これから先も、そう思える人
生にしていきたいです。
